

鳳来寺山自然科学博物館の歴史 - 原点と50年の歩み -

はくぶつかんたより No.161
2013.4

「東三河の地質と鉱物の会」と田口鉄道自然科学博物館

鳳来寺山自然科学博物館の誕生

地質の変化に富んだ東三河地方は、日本で地質の調査研究がおこなわれはじめた頃から、多くの研究者が訪れていました。研究活動が活発になるにつれ、博物館を望む声が大きくなってきました。そして、昭和24年9月23日、鳳来寺高校で「東三河の地質と鉱物の会」が結成され、同時に、田口鉄道の支援を受けて鳳来寺駅前の公舎を改造した田口鉄道自然科学博物館を開館させました。便所と間違われるほどの小さな建物から出発した博物館が、やがて鳳来寺山自然科学博物館へとつながりました。



1949 1963

昭和38年4月26日、鳳来寺山麓の現在の場所に新設し開館。鳳来町立の博物館として歩みを開始しました。同年9月22日には学術委員会が結成され、顧問に新井重三・酒井榮吾博士、委員に柿原喜多朗、小林久雄、高木典雄、鳥居喜一、井波一雄、山本隆、藤城豊先生など、錚々たるメンバー24名が就任し、館の学術面を支えることになりました。



鉄筋コンクリート3階建、一部塔屋付、1,107m²。工費29,250,000円。林業家の丸山喜兵衛氏の多大な寄附と、加藤町長をはじめとする関係者の熱意で完成。国内初の二重展示方式をとり入れた画期的な博物館として誕生しました。



昭和39年1月、愛知県地区博物館連絡協議会(現愛知県博物館協会)結成。当館をはじめ、徳川美術館、名古屋科学館、日本モンキーセンターなど11館でスタート。現在119館が加盟。

1992 第1回仏法僧シンポジウム開催

1993 第2回仏法僧シンポジウム開催
記念誌「鳳来寺山の自然誌」発行
記念式典開催

1991 展示改善 ユリ・キノコ

1989 展示改善 陸貝類

1988 展示改善 パネル類

1987 展示改善 岩石・野鳥・木の利用

1996 中央構造線レプリカ展示
長篠向林の露頭の模型

1998 町ごと屋根のない博物館シンポジウム開催

1983 増築施設工事
学習室、収蔵庫
図書庫、トイレ
バルコニーを増設
記念式典開催

1982 分類展示改善

1980-1981 仏法僧コーナー新設

1977 生態展示改善

1976 博物館友の会発足、会員75名でスタート

1974 鳥居喜一採集植物-腊葉標本受入

1973 (10周年) 記念誌「鳳来寺山自然と文化」発行。植物標本庫完成

1966 館報第1号発行

1965 地質園完成



1999 大規模改修工事
(耐震補強・内部外部改修)
「鳳来の自然観察ガイドブック」発行
記念式典開催

2003 (40周年) 40年の歳月で老朽化が進んだ館の大改修を行いました。この時、大量の標本や資料の引越しと復旧作業に、友の会員が応援してくれました。それをきっかけにボランティアグループ「博物館協力隊」が結成され、今も毎年20名以上の会員が隊員登録し、活躍してくれています。

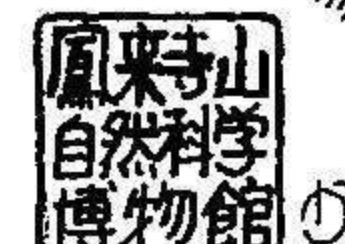
2004 博物館ホームページ開設

2005 内装改修工事

2009 バリアフリー化・展示改善工事
仏法僧コーナー、分類展示
は虫類展示など
スロープ、エレベーター、障害者トイレ設置

2011 全国博物館大会(石川・金沢)で小規模館の「博物館の運営と実践」について活動報告

2005 50年目の博物館概要
展示面積 712m²
収蔵面積 371m²
建築面積 1,740m²
鉄筋コンクリート造り3階建、一部塔屋付
木造平屋建収蔵庫



開館50周年 記念事業をおこないます。

特別展

- ①「東三河のきらめき鉱物-横山良哲が愛した郷土の鉱物たち」
- ②「博物館を支えたナチュラリストと秘蔵のコレクション」
- ③「鳳来寺山自然科学博物館 半世紀の歩み」

- 記念式典の開催 平成26年2月2日
- 新城の自然誌「動物編」、「はくぶつかんたより集」発行

50周年の博物館始動

鳳来寺山
自然科学
博物館

東三河のきらめき鉱物

ANNIVERSARY
50th
SINCE 1963

はなかなだり No.162
2013.5



学習会「鳳来寺山の春の植物を楽しむ」開催
(平成25年4月29日 はれ 35名参加)

今年は気候が安定せず、花は咲いているのかなーと思いながら登山しました。仁王門から左へ折れて馬の背展望台を通り、本堂へ至る、じっくり観察コースと、本堂からさらに山頂、鷹打場へまわる一周コースに分かれての観察でした。

山頂の瑠璃山付近ではアカマシオが花びらを桃色に染めて、出迎えてくれました。



市内学校訪問 (平成25年4月17日)

25年度の年間行事案内を届けながら、博物館友の会員の募集です。今年開校したばかりの黄柳川小学校や、これまで7ルーフ会員になっていただいている学校を中心に訪問しました。今年もたくさんご利用ください。

東三河のきらめき鉱物展 -横山良哲が発した郷土の鉱物たち- (平成25年4月27日~6月30日)

前館長の故横山先生のコレクションを中心に、東三河で産する鉱物を紹介する特別展です。田口鉱山産のパイロクスマンガン石やバラ輝石、津具のアンチモンや砂金、振草のセリサイトや硫酸鉄鉱、中宇利の地名がついた中宇利石、くじゃく石、あられ石、ざく3石に紅柱石、オパールに水晶など、地元の鉱物が光っています。



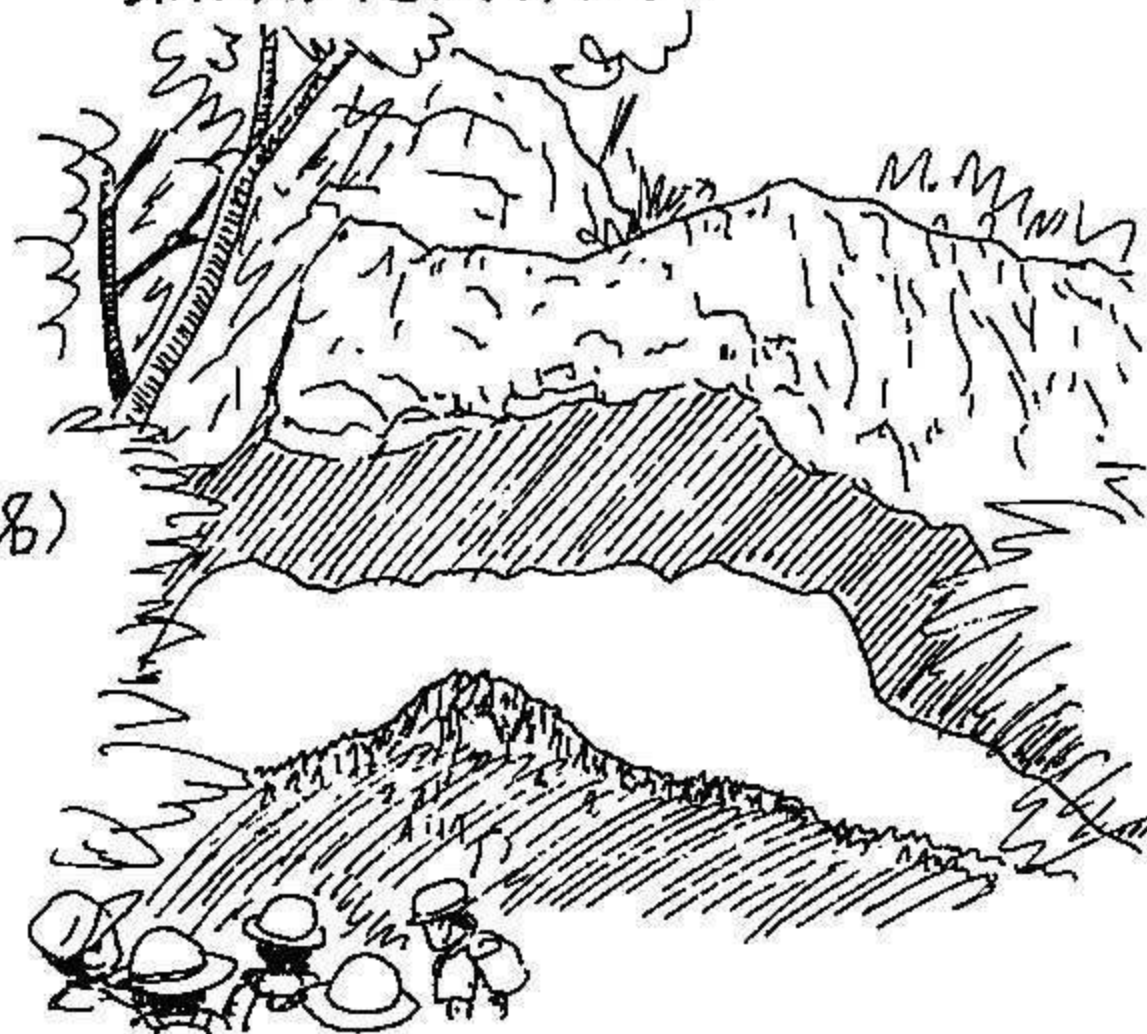
長篠郵便局が本邦初の「大地に眠る石の華」を発行しました。博物館でも入手できます。残りわずか20シート。お早めに!

博物館ガイドツアー

館内の見学案内と野外の自然観察を博物館スタッフがガイドするツアーです。

5月17日に八名中学校(51+7名)
22日に作手中学校(20+3名)
26日にシティフォレスト倶楽部(17名)が利用してくれました。

展示物や現地の動植物、岩石などが、より多くのことを語りかけてくれると思います。



50周年記念ミュージアムフェスティバル (平成25年5月3日~6日)

昨年からはじめたゴールデンウィーク中のミュージアムフェスティバル。今年は50周年の意義を込めての開催です。期間中、天候にも恵まれ、641の方が楽しんでいられました。

宝石さかし、ターボ、輪なげ、ストーンペイント、シロバッタ作り、特売ミュージアムショップなど、博物館協力隊(ボランティア)のみなさんが盛りあげてくれました。謝辞。

ジオツアー

(平成25年5月12日 はれ 30名参加)

「東三河ジオパーク」の認定を目指した活動です。今年は中央構造線をテーマにしたツアーを企画しました。その第1回のジオツアー「新城市の中央構造線をめぐる」を開催しました。

桜渚の結晶片岩、長篠の中央構造線露頭、細川断層、百間滝をめぐりました。

中学生職場体験

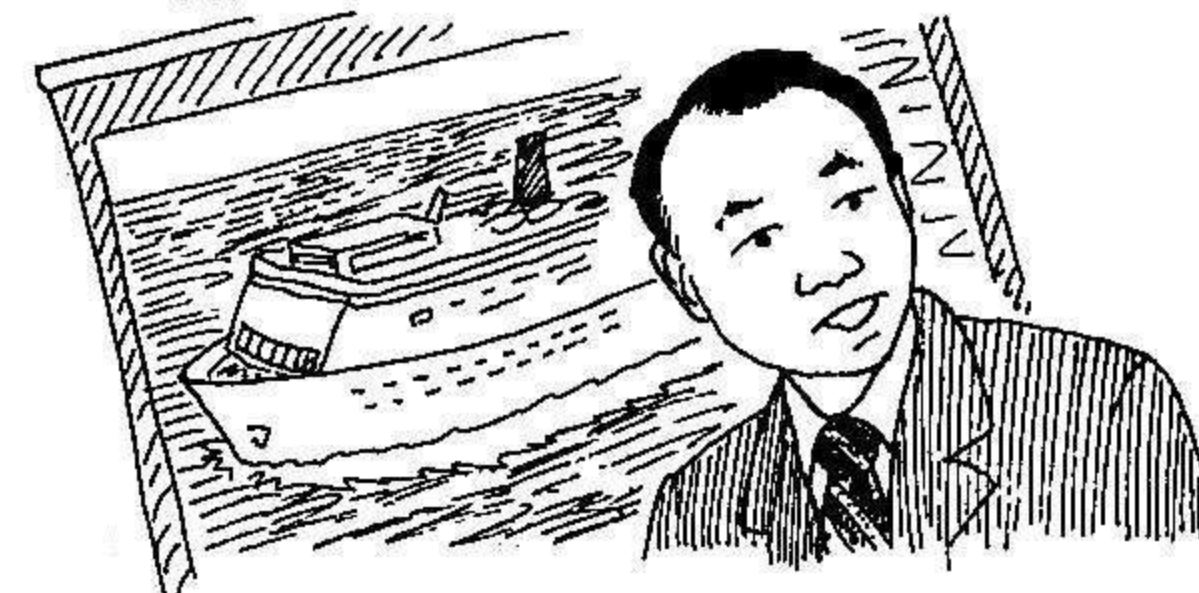
(平成25年5月22日~24日)

東郷中学2年の山本くんが、ガイドツアーに同行したり、モリアオガエルの産卵池のそうじ、販売用の岩石標本作り(石割り)鉱物採集などを体験しました。

学習会「乳岩峽の地質」開催

(平成25年5月26日 はれ 28名参加)

16年ぶりの乳岩での地学学習会でした。全山が凝灰岩でできていて、国の天然記念物です。転石が重なって、びみょうにバランスが保たれたすき間をハシゴで登ります。無事くぐりぬけた先に、みごとな石門があります。自然の造形に感激し、石門を後にすると乳岩の洞窟があります。



学術委員総会、友の会総会

(平成25年4月27日)

友の会の記念講演では、学術委員の中西正先生が「地球一周で見た自然」と題してお話がありました。102日間船の旅です。

しんしろの季節 新城の木・鳥・カエル・花のシーズン



はつなまつり No.163 2013.6

ANNIVERSARY 50th SINCE 1963



市内全域

ヤマザクラ満開
(平成25年4月13日)



四谷

コハズク鳴く
(平成25年4月21日)



門谷

モリアオガエル産卵
(平成25年5月19日)

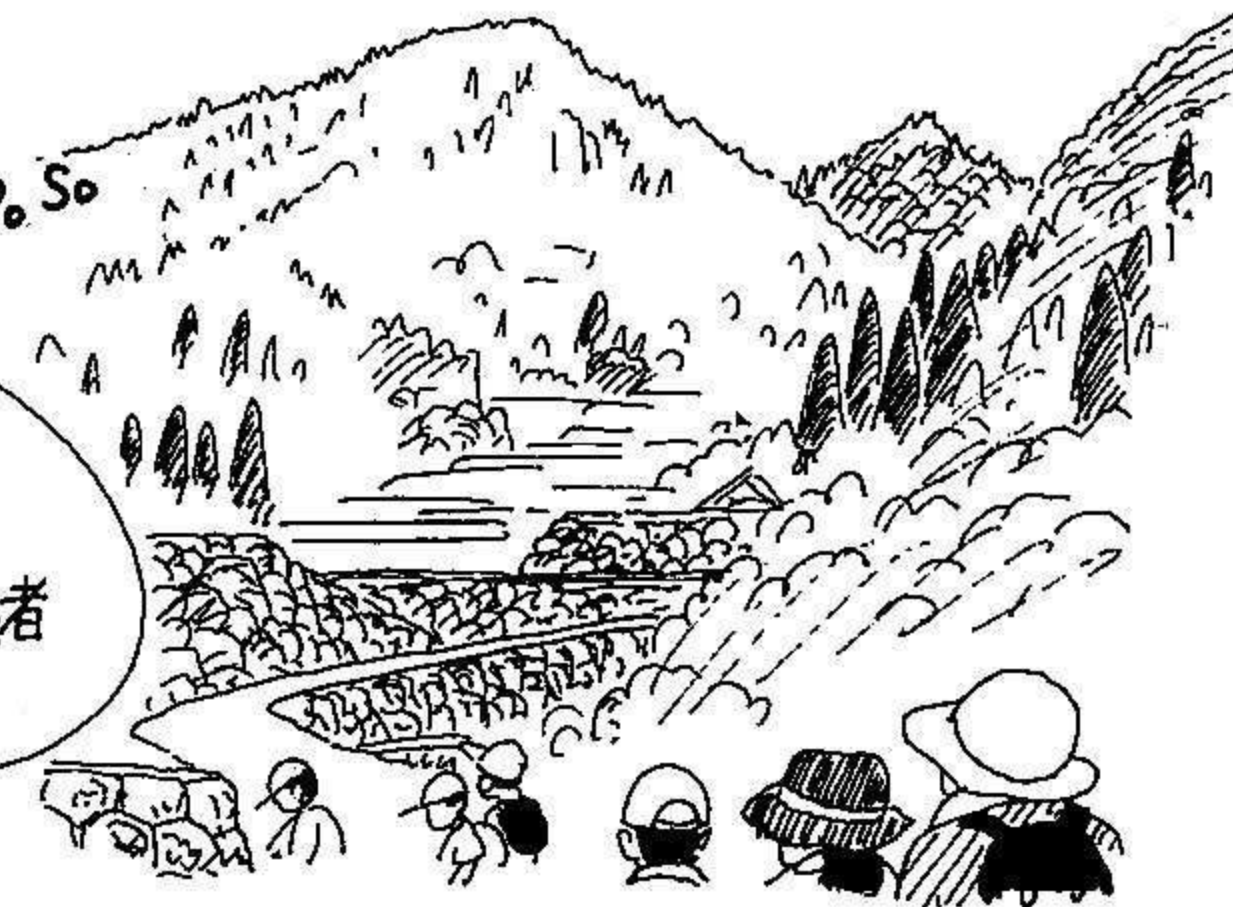


庭野

リサユリ咲く
(平成25年6月4日)

Bu Po So So
Bu Po So

5月9日(晴)は、
昼間もコハズクが
鳴いていたそうです。
水刀発電の工事関係者
が何人と聞きました。



シンポジウム「東三河ジオパーク」、ワークショップ「東三河のジオサイト」開催 (平成25年6月16日)



豊橋市自然史博物館で開催。
受講者125名。産業総合研
究所の渡辺氏、当館学術委員
の仲井先生の講師で、ジオパーク
の意義と東三河のジオパークの可能
性について語っていただき
ました。



シンポジウム終了後におこない
ました。当館は「豊川の石ころの
ふるさと探し」「石ころに絵を
描いてみよう」「本物の石ころ
はどこだ」を店ひらき。
どのコースもおおせいの
お客様でにぎわいました。

名硯に触れるガイドツアー (平成25年6月13日 39+5名)

鳳来中部小学校5年生のガイドツアーは
博物館と鳳来寺硯の見学でした。県下では
鳳来寺山麓にだけある硯工房。作家の名倉
鳳山さんのお話を聞きました。代表が石のみ
を使って鳳鳴石(頁岩)を削る体験をさせて
もらいました。さらに鳳鳴石の硯で墨を作り、
記帳簿にサインして
記録を残しました。



若鮎飛翔 (平成25年5月27日)

友の会役員の澤田さんから電話が入りました。かけつけると、
若了たちが激流に向かって、次々と挑んでいるところでした。
名勝「鮎滝」です。はねつけられても、流されても上流に向って
いく姿に感動します。この翌日、東海地方は入梅しました。



学習会「四谷干枚田で生きものを観察しよう」 (平成25年6月2日 ひとり 33名参加)

田植えを終えた棚田はみごとでした。集合場戸所から
遊歩道沿いに観察開始。ヤマアマガエルの産卵地にな
っている水田跡、タニシやカイエビ、イモリが住む水田を皆
でのぞき込みました。テイサイトや松脂岩でできた石垣に
はモリアオガエルの卵が産みつけられていました。
空を見あげると鞍掛山の上空でクマタカが3羽、ノスリが2羽
ゆったりと舞っていました。



今年もヘビアポート (平成25年6月7日)

列に待っていたわけではないのですが、この日ロビー
にヤマカガシがやってきました。中庭からの無断入館
です。そのまま専用個室に入ってどうい、近年恒例のヘビ展
示をすることにしました。そうこうしているうちに、朱色と黒の配
色が美しいジムグリの幼蛇、アゴの白いアクセントが特徴のヒ
バカリが次々と持ち込まれ個室(水槽)の住蛇が増えてきま
した。このままいくと今年もヘビの集合住宅ができそうです。



鳳来寺山で熊 (平成25年5月23日)

この日の朝、学術委員の小林元男先生が、植物
調査で馬の背展望台近くを歩いていると、10mほど
先にツキノワグマが現れました。子グマでした。
人の気配に気づくと「キマー」と奇声を発して逃げて
いったそうです。近くにはそれらしい糞も残っていました。
これまでいくつかの不確定情報がありましたが、確かな記録になりました。

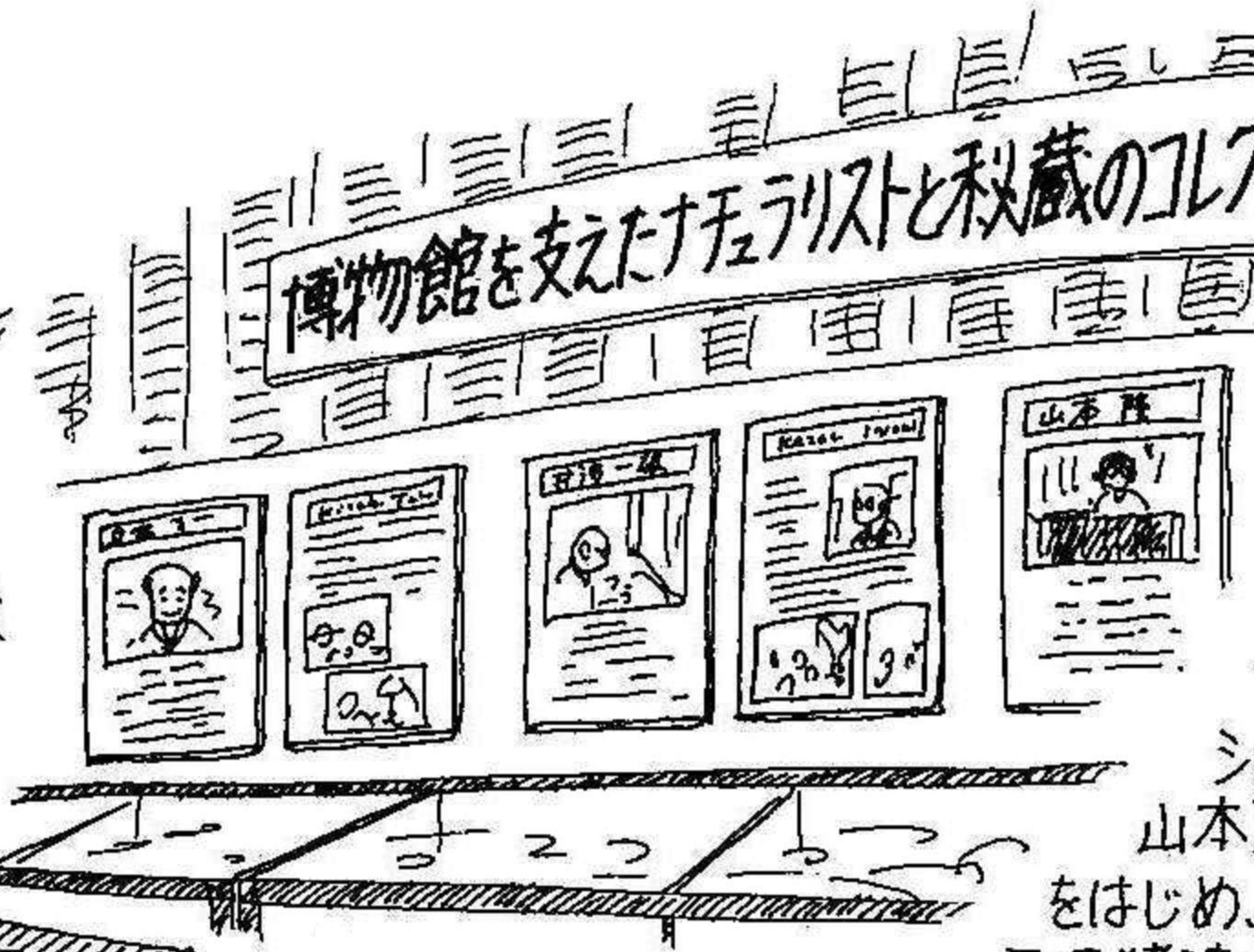
50周年の夏



ヤマユリ咲く(平成25年7月18日)

新城市の花の候補にもなった名花です。「鳳来寺百合」の地方名をもつ日本特産種。鳳来寺山麓の土手で、地元の人たちが大切に保護しています。

市内各地に自生しますが、サルやイシシ、盗掘、植生の変化などで数が減っています。



はあつなごり 76.164 ANNIVERSARY 50th 2013.7 SINCE 1963

特別展「博物館を支えたナチュラリストと秘蔵のコレクション」開催(平成25年7月20日~9月1日)

開館50周年記念事業のひとつです。開館当初から学術面を支えてくれた学術委員の紹介と寄贈していただいたコレクションの一部を展示公開しました。

山本隆先生が生涯をかけて描き残した「鳳来植物図譜」(全八巻)をはじめ、柿原喜多郎、高木典雄、藤城豊、酒井榮吾、鳥居喜一、井波一雄、原田猪津夫、横山良哲の各先生を紹介しています。

至宝「津具金山史」

津具金山の開発に情熱を傾け、成功に導いた藤城豊氏の激闘と金鉱山のくらしを記録した津具金山唯一の資料です。



世界記憶遺産に登録された山本作兵衛さんのママの記憶を思いおこします。金山再開発の苦闘と運営の苦労を絵と文で綴った一級の資料です。

夏の博物館ガイドツアー

夏を迎えた鳳来寺山のガイドツアーです。ご利用ありがとうございます。

- 6月28日 蒲川・佐久間・城西小学校(29名+3名)
- 7月10日 東陽小学校(17名+先生2名)
- 7月26日 東浦/団カワ隊(25名)
- 7月28日 2家族グループ
- 7月31日 海翔高校(9名+先生3名)



アオバズク拉致(平成25年7月23日)

7月26日は県民の森で行なわれていた、作手小学校北校舎の林間学校に出かけました。ヤマノイモとオンドコロの見分け方、風穴の天然クーラー体験、川原の石に絵を描くストーンペイントなどの7-7ショップをしました。県民の森の自然をいっぱい楽しみました。

この日豊川市からアオバズクの幼鳥がとどけられました。巣立ち前のヒナで、保護したつもりが拉致になってしまったようです。気を付けましょう。

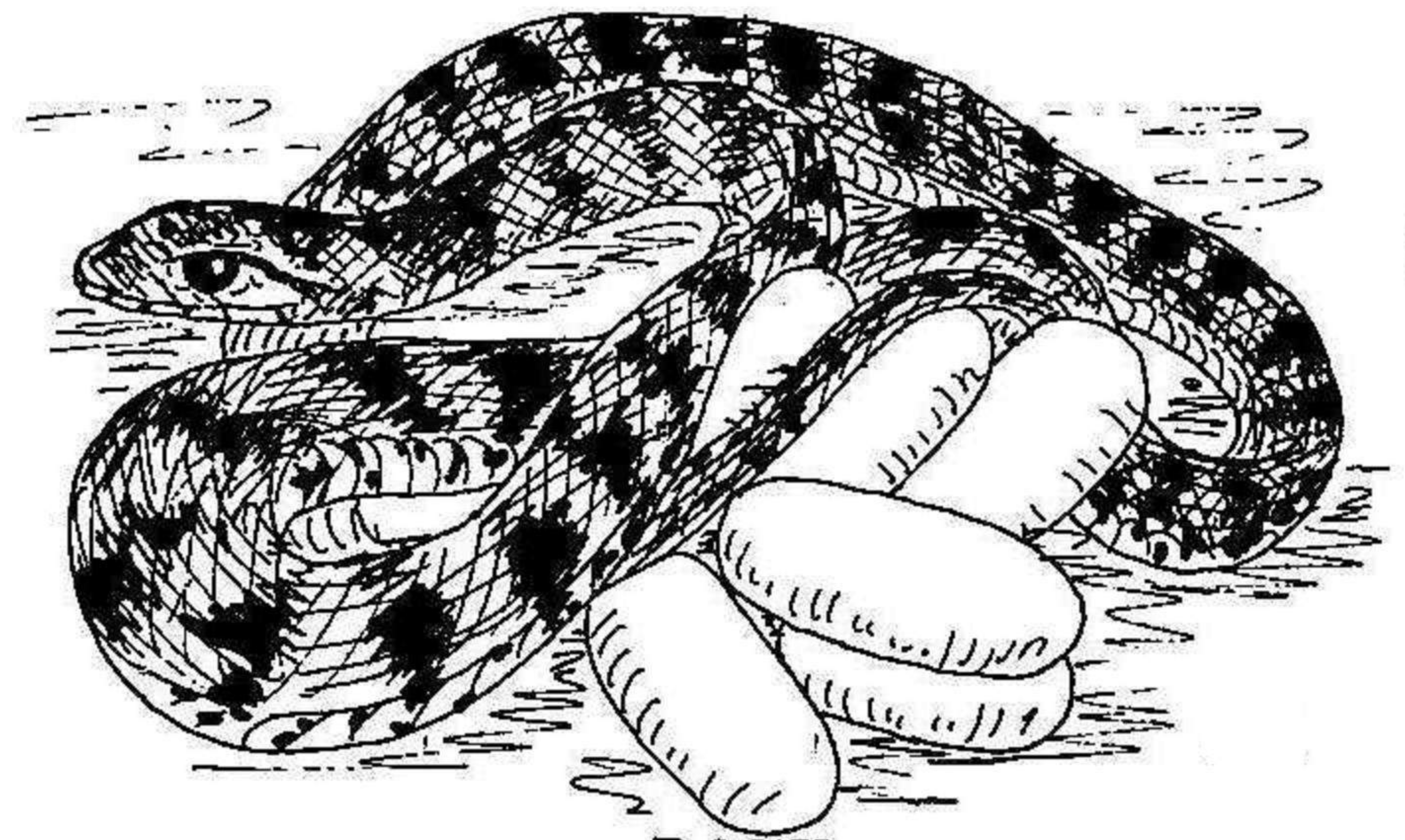
野外学習会「新城市の滝めぐり」(平成25年7月28日、はれ、25名参加)

長篠城趾の不忍の滝、睦平の不っ田の七滝、大野の桐谷の不動滝、湯谷の大滝と乙女沢の荒沢不動滝をめぐりました。宇連川に沿って見られる滝です。三波川変成岩、圧砕岩、堆積岩、火山岩と、さまざまな地質の場所にかかる滝を観察することができました。



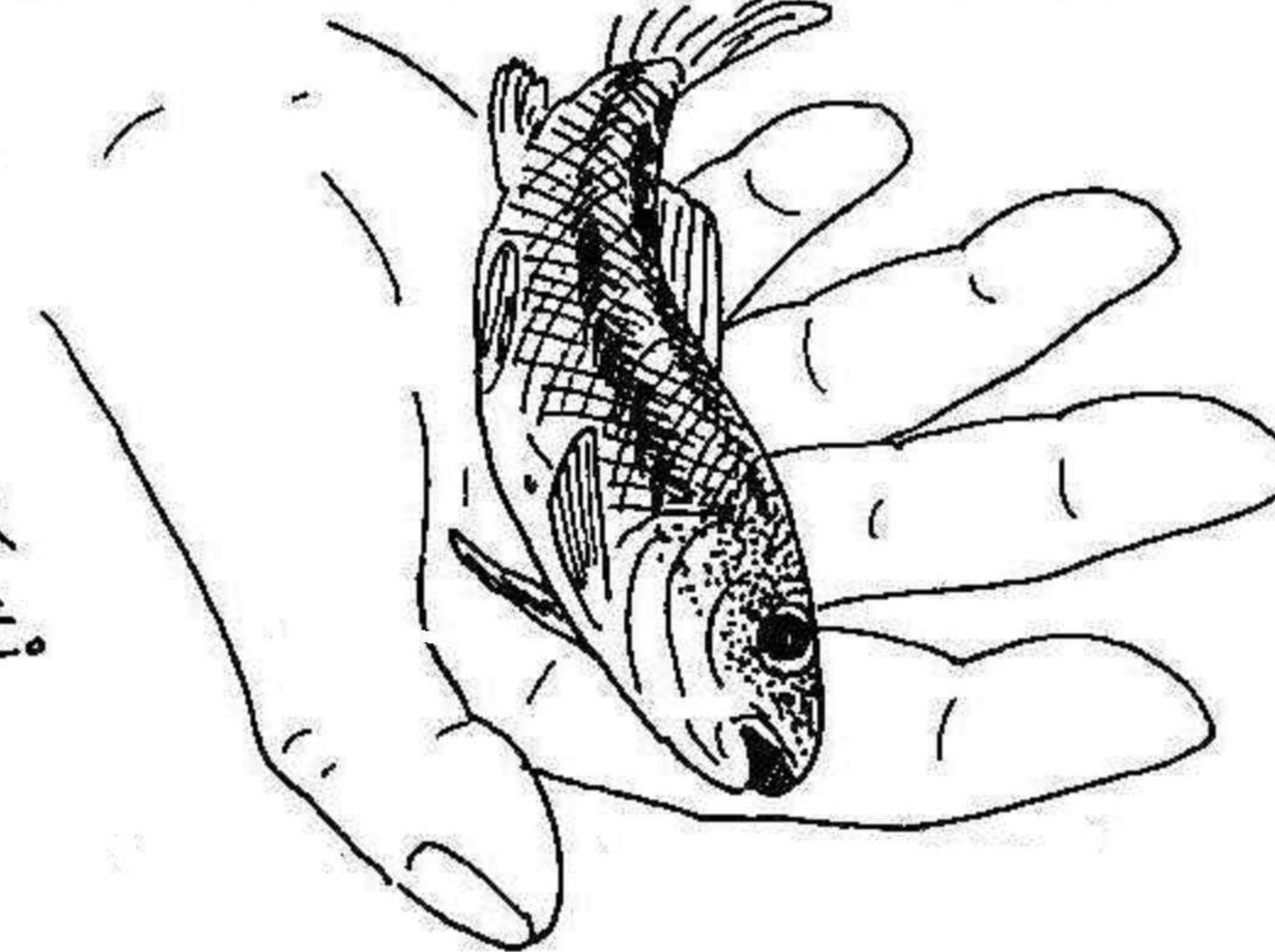
ヤマカガシ産卵(平成25年7月13日)

6月7日にロビーに侵入したために飼育展示されたヤマカガシが産卵。長だ円形で、殻はやわらかです。これまでに館で産卵したことのあるイシガメやシマヘビの卵とそっくりです。



子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座「魚のふしぎ」(平成25年7月21日、くもり、18名...子どもにかえた大人6名を含む)

午前は魚の進化や体のしくみを学んだ後、音為川に入って実際に魚の採集をしました。午後は捕まえた魚の観察とあらかじめ用意しておいた標本のスケッチや解剖を行ないました。魚をじっくり観察するよい機会になりました。



友の会行事「初夏のきのこを見つけよう」(平成25年6月30日、23名参加)

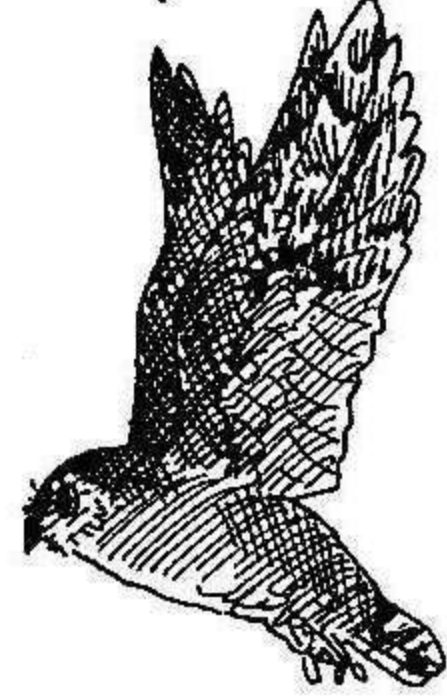
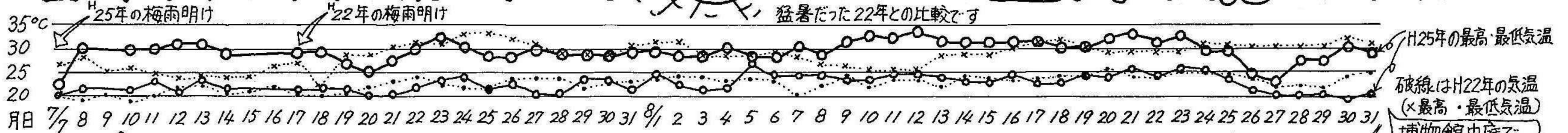
会員限定の観察会です。作手高原の鬼久保広場で行ないました。テングタケ、タマゴテングタケ、モドキ、コテングタケなどのテングタケ科や、カワリハツ、ケショウハツなどのハニタケ科のきのこを中心に観察できました。全体で66種のきのこを確認することができました。



暑くてカラカラの夏でした



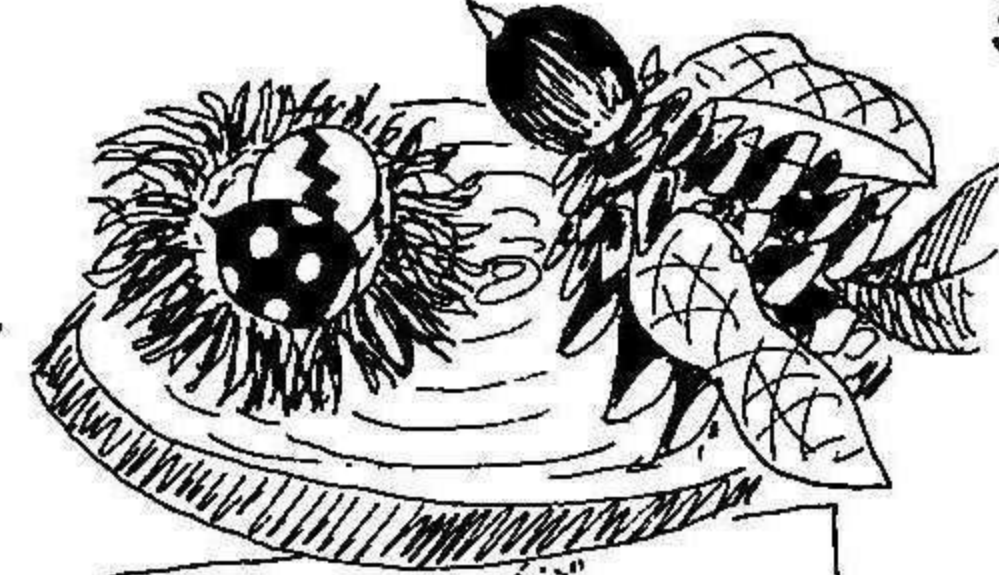
はっかだり No. 165 ANNIVERSARY 50th 2013. 8 SINCE 1963



アッ!
たっしゅでネ〜
(平成25年8月5日)

幼鳥でやってきたアバズグもすくすくと成長し、コノハウスに移して自立訓練をしていました。

夕方、117のように餌のウズラを手えようとドアを開けたところ、職員とドアのすき間をすりぬけて脱走(走?)。みごと自然復帰成功!ということになりました。



子ども&子どもにかえりたい大人の自然講座

木の実で作ろう! オブジェやアクセサリー
(平成25年8月18日、11名参加)

マツホックリやフルミ、ドンクワリなどを使って自分だけのアクセサリーや楽しいオブジェを作りました。

石で道具を作ろう
(8月25日、37名参加)

一般見学者のとびいり参加もあっておおせいでにぎわいました。

これまでやってきた石器とちがひ、今回は砂や小石を使って、砂絵や石を組みあわせた置物を作りました。

考えてみると、石は人のくらしの中で、いろいろな形で道具として使われていることがわかりました。



野外学習会「夏の鳳来寺山の生きものを観察しよう」
(平成25年8月4日、はれのちくもり、19名参加)

午前には昆虫採集と顕微鏡観察。トンボの顔は大部分が眼で、その眼もたくさん目が集まってできていることがわかりました。午後は水生生物の観察です。水生昆虫やサワガニなど、水の中の生きものを調べることで、川の水質が判ります。今回、音為川は、きれいな水と少しきれいな水の中間の結果でした。

中学生職場体験

平成25年8月6~8日 千原中 3名
8月20~22日 鳳来中 2名
石割りにはほぼ全員が挑戦してもらう予定です。体験をとおして肌で知る石の性質は忘れません。

東三河の新任教員研修
(平成25年8月23日、81名+6名)

東三河の初任者研修が市内でおこなわれ、博物館も研修コースになりました。学校の授業で役立ててほしいと思います。

幻の滝出現 (平成25年8月22日)

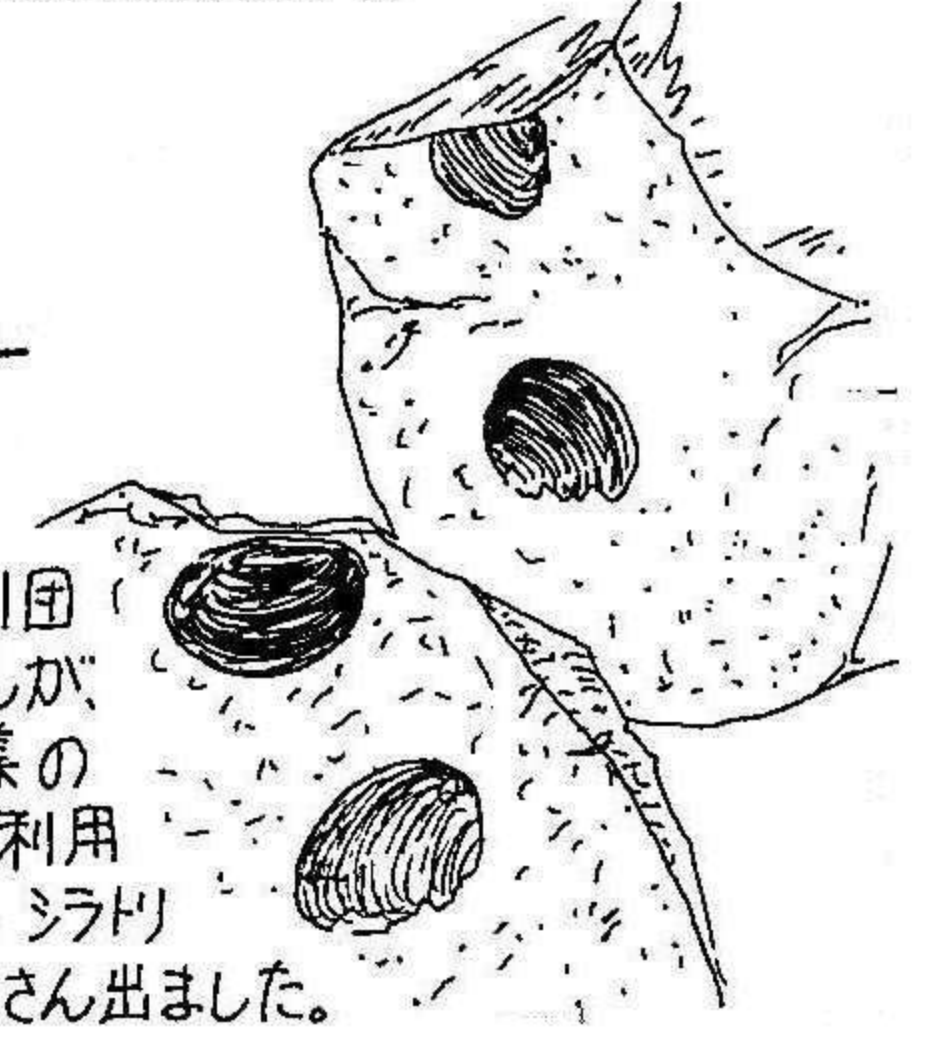
宇連ダムの貯水率が7%まで下がっていました。一帯には、設楽火山活動末期に大地の割れ目に貫入してきたマグマが冷えてできた岩脈群が分布しています。安山岩の岩脈は、周囲の凝灰岩より固く、侵食されにくいために、滝をつくります。ダムの完成とともに湖底に消えた蟬が滝や参河園名所図絵にも紹介されている穴滝が姿を現しました。その後貯水率は1%まで落ち、豊川用水は大ピンチになりました。

博物館ガイドツアー
(平成25年8月11日)

ボーイスカウト豊川団の19名のみなさんが、見学と化石採集の体験ツアーを利用してくれました。シラドリガイの化石がたくさん出ました。

大群落 (平成25年8月2日)

学術委員の小林元男先生に同行してきました。宇連ダムの右岸の山にその大群落がありました。急傾斜の道なき道を登ると、一帯がコウヤマキの大群落。さらに、その林床はホソバシメツナゲの大群落。すごいのみとことです。県下では最大規模ではないかとのことでした。



博物館50周年の秋

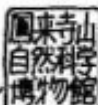
ジオツアー「遠州浦川周辺の中央構造線をめぐる」
(平成25年9月29日、はれ、49名参加)

新城地方に続く第2弾のジオツアーです。東三河の地質を2分した中央構造線は、浜松市浦川を通過して信州へと続きます。計画では青崩峠を目指しましたが、道路事情で浦川までとなりました。断層がつくる地形と露頭の岩石を、じっくり観察することができました。



開館50周年記念特別展「鳳来寺山自然科学博物館半世紀の歩み」展
(平成25年11月1日～26年3月31日まで開催)

はつかり Vol.166 50th
2013.10 ANNIVERSARY



学校の博物館利用

- 秋に入って学校の利用がたかさんありました。9月～10月の状況です
- 9月10日 名城大学学芸員課程、博物館研修(32人)
 - 9月19日 鳳来中部小学校ガイドツアー(29人+3人)
 - 9月28日 愛知大学地域政策学部(32人)
 - 10月22日 韓国慶北大学附属中学(20人+3人)
 - 10月25日 鳳来西小学校(26人+8人)
東郷西小学校(35人+2人)
千郷文化講座「きのこの話」(20人)
 - 10月27日 碧南海水水族館「きのこ観察会」(27人)
 - 10月31日 設楽町清瀬小学校(15人+4人)



受難の秋

- 9月5日 アカショウビン 作手保永で保護
 - 9月30日 アオバズ7 名古屋市内で保護
 - 10月16日 コハズ7 一宮市丹陽町で保護
- 疫病の時期に各地で保護されました。衰弱して保護されたものはかりです。

東三河の地質と鉱物の会が拠点、にしていた田口鉄道自然科学博物館と中心メンバーの実物大ジオラマ。



田口線のジオラマ

教育普及、調査研究、収集保存などの博物館活動のようすを紹介しています。

昭和24年に田口線鳳来寺駅に隣接して開館した田口鉄道自然科学博物館(23坪)を再現しました。古材を利用し、極力当時の雰囲気ができるように、地元の大工さんががんばって作りました。
内部には、実際に展示されていた玉すいじや、その頂をしのはせる古い欄本やパネル、博物館建設に至る歴史を紹介しています。

なつかしい田口線の1/150模型です。7年の歳月をかけて、高校教師の伊藤さんがつくりあげました。客車モ14と木材運搬車車のデキが実際に線路を走ります。

傘杉は背が伸びたか? (平成25年9月3日)

愛知大学の近藤先生とゼミの学生さん、そして新城測量設計のみなさんと傘杉の樹高測定をしました。これまで公表していた樹高は59.57m(2013.12.9計測—新城測量設計)です。はたして結果は……
樹高:根元下端 58.17m
根元上端 57.50m
根周:13.08m(直径4.16m)
胸高:7.7m(直径2.45m)
目通し:7.48m(直径2.38m)
縮んだ? 樹の傾きを考慮すると59.6mほどになるようです。



開館から50年間の活動の歴史を年表にして紹介しています。展示ケースには館報や特別出版物、学習会で使われてきた、手作りのテキストなどを展示しています。
昭和38年4月25日の開館式に、ヘリコプターから投下された、祝辞入りのカプセルも展示してあります。

博物館友の会の歴史と活動を紹介するコーナーです。会報誌や会員証、消しゴムで作った出席印などを展示しています。また、会員表彰のようすや、ミュージアムグッズ類、はくがつかんだようなども紹介しています。



50周年を駆ける



学習会「県民の森の紅葉を楽しむ」
(平成25年11月17日、はれ、13名参加)

紅葉には少し早かったようです。県民の森は遊歩道が整備されているので、安心して観察ができます。今回は尾根を登らず、麓でしっかりと観察しました。ヤマムラサキとムラサキシキブの見わけ方、70モジとヒメクロモジの違いを知ることができました。



愛知県博物館協会50周年記念「博物館等職員研修」
(平成25年11月28日、35名参加)

愛知県博物館協会は、当館と同じ昭和38年に設立され、ちょうど50周年を迎えました。当時は11館での出発でした。協会の50周年を記念し、加盟館の研修を新城市で行なうことになり、設楽原歴史資料館、長篠城址史跡保存館、鳳来寺山自然科学博物館を会場にして開催しました。



学習会「野鳥を観察して巣箱をつくろう」
(平成26年1月12日、はれ、12名参加)

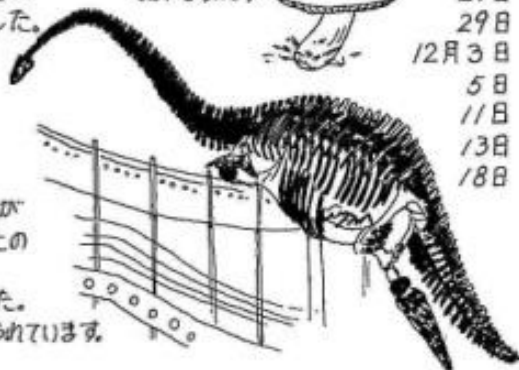


午前中は鳳来寺山麓で野鳥観察でした。ハイタカ、ノスリ、ハヤブサなどの猛禽類の姿を見せました。合計で18種確認しました。午後は巣箱づくりです。杉板を自分で切って、使ってもらいたい野鳥を思いえがきながら製作しました。

学習会「生命の海科学館の見学と西浦半島の地質」
(平成25年12月1日、はれ、23名参加)

蒲郡にある博物館で生命の進化について学びました。ほとんどが実物の標本で、貴重なものばかりです。骨の構造によって、進化の歴史や、生物の分類までできることも学びました。

午後は西浦半島の海岸に露出する神原花崗岩を観察しました。領家変成岩の形成途中の9000万年ほど前に入り込んだとされています。



学習会「きのこを調べよう」(平成25年10月12日、はれ)

記録的な少雨のために、山はカラカラに乾燥していましたが、48の眼でさがすと見つかるものです。サルノコシカケの仲間の硬質菌にまじって、ヌメリササゲやカワリハツタがありました。珍しいキハリタケも出ていました。(24名参加)



はつなごり No.167 50th 2014.1 ANNIVERSARY

ナイトミュージアム(平成25年11月28日、16日、23日、各土曜)

鳳来寺山とみじ屋の「千の灯火」にあわせて、2年前からおこなっています。日没から夜の8時まで、夜の博物館を楽しんでもらっています。夕方にはオオコハス7の餌やりがありますから、運がよければお食事のようが見られます。

ミュージアムフェスティバル(平成25年11月29日~24日)

今年は天候にも恵まれ、暖かな2日間でした。博物館協力隊と大勢出勤してくれました。



博物館ガイドツアーと学習利用

- 11月22日 豊川市-宮南部小学校(14+2人)
- 25日 鳳来寺小学校「古道を歩く」(66人)
- 27日 黄柏川小学校ガイドツアー(14+1人)
- 29日 豊田市岩倉小学校ガイドツアー(37+2人)
- 12月3日 黄柳川小学校 地層学習(15+1人)
- 5日 鳳来中学校ガイドツアー(80+5人)
- 11日 鳳来西小学校ガイドツアー(7+2人)
- 13日 庭野小学校ガイドツアー(13+3人)
- 18日 東陽小学校ガイドツアー(26+3人)

JA愛知東の文化講座

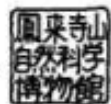
(平成25年11月14日、本店)

今年は「東三河ジオパーク構想」について話をしました。ジオパークについて多くの人に知ってもらい、東三河が1つに優れた地域で、ふさわしいかを、写真と標本で説明しました。



50周年記念式典

平成26年2月2日
50th ANNIVERSARY



はつかり No.168
2014.2

第I部

式辞 新城市 穂積高次市長
感謝状と記念品贈呈 市長
来賓祝辞 夏目勝吾議長、鈴木、今枝国議、峰野県議
友の会員の話 加藤久登くん



第II部

博物館活動報告 加藤貞子 館長
植物部門活動報告 三津井宏 学術委員主任
動物部門活動報告 大平仁夫 学術委員主任
地学部門活動報告 仲井 豊 学術委員主任
あいさつ 和田守功 教育長



懇親会

市長あいさつ
友の会長あいさつ 丸山潤次郎さん
乾杯 シュース
懇談 五平どう、とろめし
万歳三唱 広瀬安信副市長

50周年記念の品





51年目スタート

はがつなまつり 76.169
2014.4



新城市天然記念物「障子岩岩脈」大探検

(平成26年2月23日、友の会員26名参加)

会員限定の行事です。雪の残る宇連ダム奥地に向かいました。途中の道がぐずぐずで分断され、大迂回。断崖にハシダをかけてさらに進むと、壁のように立ち上る障子岩脈が見えてきました。この岩脈のすごさを知るには、対面する山の頂まで登り頂上から見る。今日は中腹からのながめでしたが、日本最大級のスケールを堪能できたと思います。(障子岩岩脈:延長約2.9km、平均10m、最大20m、安山岩岩脈)

地元での講演

2月14日、新城市立豊利小学校のPTA講演会で、「豊利小学校校区の自然と岩石」についてお話をさせていただきました。



4月4日、豊橋市で「東三河懇話会の年さん交流会」があり、「風巢寺山自然史博物館の半世紀の歩みと新城市地方の自然」のテーマで講演をしました。

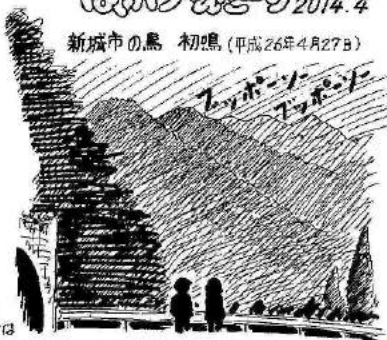
私たちのくらま大地は、地質の変化に富んだ、すこぶるいろいろな地域で、そこにある自然博物館を愛しいところがあることが、うまく伝わってほしい。



二重、八重に咲く新城市の木

(平成26年4月5日)

新城市の木はヤママツラです。今年は4月上旬に見ごろを迎えました。市内各地で満開に咲き競っていましたが、吉野山では二重咲き、八重咲きの株が見つかりました。学術委員の小野元男先生の発見で、とても珍しいことだそうです。見つけた場所と日付をのぞいては、いつか持ち帰ります。



19時40分から3分間、唄ひてくれました。四谷の仏壇前で、岡田孝一さんが撮影しました。風巢寺山で温く日は、いつになるのか、みんなが待っています。

博物館ガイドツアー

(平成26年2月20日)

作手小学校北校舎の5・6年生が利用してくれました。理科の地層学習のためです。博物館の見学のみと、花壇組山でとっておきの化石採集地で、1800年前の貝の化石を採ることができました。



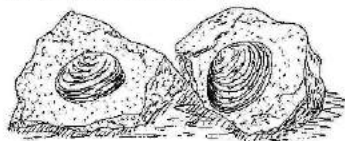
会長撮影 5年3組



1/記念講演



おもしろいお話です



学術委員総会・友の会総会 (平成26年4月20日)

平成26年度総会です。学術委員総会では、新体制になった博物館スタッフの紹介をしました。昨年までの館長(男)以外は全て女性(♀)の花園状態から、若手新人職員(2名)が入り、一気に若かえり男々となりました。友の会総会では、記念講演として、学術委員総務の山田由紀先生が「花と私と博物館」の題で講演してくれました。博物館の玄関と、117の花で「かざり、中庭のセツラン」を見て、咲かせてくれてるのが、山田先生です。

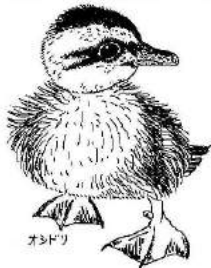
博物館 生きもの係



はがっかどり 16-170
2014.5

今年も来てしまいました
(平成26年5月19日)

この時期、野鳥たちにとって巣立ちの季節です。今回は四谷の千枚田から出てきました。鼻道からススツクかきつて口ばしにケガをしていました。見逃せずに保護したものです。今は元気になって中庭のゲートに引渡しました。羽のすばいさん大入りびてきました。



オンドリ



オコハスワ

オンドリのヒナ
(平成26年5月24日)

急ピッチで進む新築工事現場(山田-引佐の機付近)でオンドリと思われた幼鳥が保護され、持ち込まれました。水槽に入れるとグルグル泳ぎまわっていました。翌朝確認すると、雉かぬ鳥となりました。残念。

不明のサンショウウオの卵が見つかる
(平成26年5月1日)

以前から生息情報はあるものの正体不明だったサンショウウオの卵(卵のう中に15個)を作手主任の石石さんが見つけた。卵だけでなくの同定は難しいので、育ててみることにしました。このサンショウウオの正体はわかりません。



5月2日

すでに卵の形ができています。

5月9日 孵化。



毎日100匹以上のアヒルを養育する経験が不足です。

5月29日 尻が生えました。



初産卵は未受精卵 (平成26年5月19日)

出勤すると鏡前の池の脇にある支柱で、モリアオガエルが産卵の最中でした。ただし、数だけ産卵です。雄の姿がありません。その卵壺を毎日観察しましたが、待てどくろせど、オタマジャクシにはなりませんでした。

5月6日に現池へ案内してもらうと、別の卵のうら見つけることができました。そこで見つけることになって、その場をあとにしました。早く成体が見たいです。

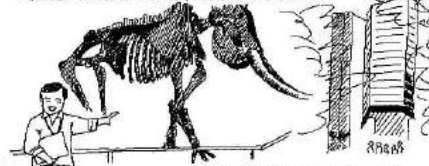


野外学習会「老古谷山の春の植物」
(平成26年5月10日、はれ、21名参加)

新緑の老古谷山(観音町)を実施しました。火山岩類のテラスでできた趣意な岩山です。岩場からは観音火山の名残の山々を大101号線で見渡すことができました。温帯林の落葉樹が、一斉に芽ぶいた景色は、心が洗われるようでした。昼の休けい時には、ババアが目の前に現れました。あいさつしてくれました。

野外学習会「博物館で化石と自然史を学ぶ」
(平成26年5月25日、はれ、19名参加)

関市にある岐阜県博物館へ行ってきました。体験アトラクションでは、化石のレプリカ作り。化石クリーニングをおこないました。大人と子どもとで夢中になれる。自然展示は、時代区分ごとに標本と解説があり、岐阜の自然史が理解しやすいように工夫されていました。



職場体験

(平成26年5月21~23日)

奥郷中学の夏目くんが来てくれました。若石野、オコハスワの世話を、展示解説作成などを経験してもらいました。

博物館ガイドツアーと見学

- 5月2日 東陽小遊学館3とウオーク(146名)
- 5月15日 八幡中遊学ガイドツアー(49名)
- 作手中学校ガイドツアー(27名)
- 5月29日 個人ケルファ博物館ガイドツアー(6名)

春のミュージアムフェスティバル
(平成26年5月31日～6日)

恒例になった春の博物館祭りです。5日はあいにくの雨でしたが、輪投げコーナーを中庭に移して、盛り上がりを楽しんでもらいました。至石がしコーナーは毎回人気で、今年は新たに鏡物を仕入れて、追加したので、大抵の鏡物をゲットした人がおぼせました。



今日の初産卵

